

# 第6次江南市総合計画市民会議 議事要旨 (第4回 第2分科会 (ひとづくり分野・ちいきづくり分野))

日 時 平成28年12月22日(木) 15:00~16:40  
会 場 江南市役所 第3委員会室  
出席者 出席委員10名(全員出席)

## ■委員

《会長》	松尾 昌之	江南市子ども・子育て支援推進協議会会長
《副会長》	岩根 佐代子	公募市民
	大森 英樹	公募市民
	近藤 功明	公募市民
	坪内 三	江南市老人クラブ連合会会長
	坪内 利男	江南市体育協会会長
	伊藤 健司	江南市総合計画策定部会(ひとづくり分野) 部会長
	中村 信子	江南市総合計画策定部会(ひとづくり分野) 副部会長
	貝瀬 隆志	江南市総合計画策定部会(ちいきづくり分野) 部会長
	高島 勝則	江南市総合計画策定部会(ちいきづくり分野) 副部会長

## ■傍聴者

なし

## ◆議題

### 議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

## ◆会議結果

### 1 開会

事務局より挨拶。

### 2 市民会議

#### 2.1 議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

①分野Ⅳ-柱5 健康づくりについて

(健康づくり課) ~ 分野Ⅳ-柱5健康づくりについて健康づくり課長より説明 ~

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 個別目標①のこうなん健康マイレージ優待カード交換者数が、平成35年にかけて急増するが、どういうことか。

(健康づくり課) 基準年度の平成27年度は、事業開始した年度で、開始時期も秋だったことから人数が少なくなっています。また、今後は対象者の年齢制限を撤廃し、市民から、市内在勤者まで拡大していきます。

(委 員) 「現状と課題」にがん検診受診率が低いとあるが、全国平均などと比べて低いということか。

- (健康づくり課) 県内ではそれほど低くはありませんが、国の目標である 50%と比べて低いということです。
- (委員) 受診率の分母は何か。
- (健康づくり課) 国民健康保険と後期高齢者医療保険の被保険者から算出した数を分母としています。ただし、市によって分母とする数値の算出方法が異なり、国でも統一的な算出方法について検討がなされているところです。
- (委員) それならば受診率の分母にどんな数値を用いているか注釈等を入れた方がいい。個別目標のがん検診精密検査受診率の対象者数はどれほどいるのか。
- (健康づくり課) 肺がん検診は 355 人、大腸がん検診は 637 人です。
- (委員) 裾野を広げるという意味では、精密検査よりもがん検診受診率を上げ、受診したことのない人にも受診させた方がいいのではないか。
- (健康づくり課) 国から、新たな目標として精密検査受診率の向上が示されており、新たな総合計画の目標としてはそちらにも対応していきたいと考えています。もちろん精密検査だけでなく、継続してがん検診受診率の向上にも取り組んでいきたいと考えています。
- (委員) 母子保健については、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援、地域の包括的なサポートなどの必要性が叫ばれていると思うが、どのように考えているのか。
- (健康づくり課) 江南市では、妊娠期から切れ目のない支援などについては、現段階では、子育て支援や、生涯学習など各所管課の施策で、ある程度カバーできていると考えています。ただし、妊娠期から出産後間もない時期については課題があると認識しております。江南市では、母子手帳の交付時から、個別に状況の聴き取りを行い、民生委員や医療機関とも連携して切れ目が生じないように支援を行っていくよう努めています。
- (会長) 「行政の使命」に市民の健康意識を向上させるためのボランティアの育成、活動支援を行うとあるが、ボランティアはどのような役割を担っているのか。
- (健康づくり課) ボランティアとして、食生活改善グループとフットケアグループがあります。保健センターの事業を手伝いながら、自主的に料理講座を開催したり、高齢者のサロンに出向いてフットケアや体操の指導を行っています。
- (会長) 現在、健康フェスティバルなどのイベントでも活動していると思うが、そうした機会を増やしていくということか。
- (健康づくり課) ボランティア自身も高齢化が進んでおり、活動が途切れないように支援していきたいと考えています。
- (会長) かかりつけ医をもっている市民の割合という指標があるが、別の会議で、かかりつけ医というのは、厳密には診療所のことをいうのであって、病院については、かかりつけ医とはいわないとのことらしい。しかし、市民は病院に通っていればアンケートではかかりつけ医がいると答えてしまうだろう。
- (健康づくり課) 今後アンケートを実施する際には、正確に回答できるように質問の仕方を検討します。

## ②分野Ⅳ－柱 4 障害者福祉について

- (福祉課) ～ 分野Ⅳ－柱 4 障害者福祉について福祉課長より説明 ～
- (会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。
- (委員) 障害者数の推移にある障害者とは、サービスの提供を受ける障害者の数か。
- (福祉課) 障害者手帳の発行を受けている障害者のことです。
- (委員) 前回の高齢者福祉の検討の際に示された要介護者数よりも多いが、市の予算、職員の人員配置は高齢者生きがい課と比べてどうか。
- (福祉課) 障害者であっても、65 歳以上になれば介護保険サービスを優先して受けるようになることから、予算も介護保険で計上することになります。したがって予算規模、人員ともに高齢者福祉の方が大きくなっています。
- (委員) 高齢者が生きがいをもち、自立して暮らしていると感じる市民の割合の目標値が 20%に対して、障害者が地域でいきいきと生活していると感じる市民の割合の目標値は平成 35 年に 40%、平成 39 年度に 50%と大きな開きがある。江南市の障害者福祉に関する取り組みや方向性を教えてほしい。
- (福祉課) 障害者がいきいきと生活していると感じる市民の割合の現状値が 21.3%と低い数値となって

いるのは、高齢者と比べても、身近で障害者の生活している姿を目にする機会がほとんどの地域でないということが原因となっていると考えられます。今後、障害者が地域でサービスを受けながら就労したり、生活する姿を目にしたりすれば、割合も上げていくことが可能だと考えております。

- (委員) 基幹支援センターへの相談件数も増加させていくという目標があるが、福祉課の職員で対応することが可能なのか。
- (福祉課) センターの窓口は市と社会福祉協議会にあります。社会福祉協議会では、3人の専門の相談員がおり、相談件数は市と社会福祉協議会を合わせた数値ですが、内訳としては社会福祉協議会の方が多くなっています。
- (委員) グループホームの利用人数は目標増加数に合わせて施設の拡充なども図っていくのか。
- (福祉課) 現在、市内には4箇所ありますが、利用人数は基準値、目標値ともに、半分以上は市外の施設の利用者となっています。県の考えでは、尾北圏域で必要とされる施設の整備が進められておりますが、江南市で生まれ育った方は江南市の施設を利用するのが理想だと考えておりますので、国や県にも働きかけていきたいと考えています。
- (委員) 通所支援サービスの事業所は、現在江南市で何箇所あるのか。
- (福祉課) 市の直営のわかき園を含めて10箇所あります。利用者は年々増加している状況です。
- (委員) 10箇所で目標人数を賄えるのか。
- (福祉課) グループホームと同様、市外の事業所も含めた目標値となっています。事業所によって特色がありますので、利用者は自分にあった施設を選んで利用しているということになります。
- (会長) 県では、圏域内で地区による偏りが出ないように縛りをかけているように思えるが、江南市ではそれにとらわれず、対応していきたいという考えということか。
- (福祉課) 社会福祉法人が施設整備する場合、国・県の補助金が受けられなければ困難です。施設の需要は高まっていくのは確かなので、国・県に働きかけていきたいと考えております。
- (会長) 成年後見制度利用支援件数という指標があるが、社会福祉協議会でも、障害者の権利擁護に関する事業があったと思うが、そういったものも入れていってはどうか。
- (福祉課) 社会福祉協議会では、日常生活支援として、判断能力の低い方の金銭管理を行っており、高齢者なども含めてかなりの方が利用されていますが、指標として加えるかどうかは検討させていただきます。

### ③分野Ⅳ一柱7 生活支援・福祉活動について

- (福祉課) ～ 分野Ⅳ一柱7生活支援・福祉活動について福祉課長より説明 ～
- (会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。
- (委員) 生活困窮者とは、どのようなことをいうのか。生活保護受給者との違いは何か。
- (福祉課) 生活保護法で定める基準以下の収入の場合は、法律により保護されます。生活困窮者とは、法律では、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方をいい、あいまいな定義なので正確な数を把握するのは困難ですが、社会福祉協議会への自立支援相談は平成27年度で40件ほどあったとのこと。
- (委員) 民生委員への相談件数が増えているが、民生委員は成り手が少ないと聞く。民生委員を増やさずにこの件数をこなせるのか。また、個人情報保護の観点から、横の連携が取りづらいと聞くが解決方法などはあるのか。
- (福祉課) 今年度民生委員の一斉改選でしたが、133人のうち、再任される方がほとんどですが、20数名の後任を確保するのに大変苦勞しました。民生委員自身の高齢化も進んでおり、負担が大きくなっています。相談件数は増える年もあれば、減る年もあり、ほぼ横ばいという状況です。法で定める民生委員の定員は現在充足している状況です。定員の増加については、各地区の委員と相談しながら検討していきたいと考えております。
- 個人情報の保護については、民生委員は、法的には守秘義務があり、不必要な情報の収集なども制限されますので、研修の際にも注意喚起しております。その研修においては、市、民間で実施している福祉サービスについて、民生委員が相談を受けた際に、次に繋げられるように案内をしているところです。
- (会長) 行政の使命に、既存の制度、機関のみでは対応が困難な課題を地域全体で解決できる仕組みをつくとあるが、まずはそれぞれの機関がどの範囲を守備範囲とし、どんな取り組みをし

ているかを知り、その上で連絡協議会のようなものを組織し、連携のあり方を模索したり、重なる部分を確認したりすることが重要となってくる。市の施策がいくつかあるが、単純にそれを拡充していくということが書いてある。既存の制度、機関のみでは対応が困難な課題を地域全体で解決できる仕組みをつくる、というのが、市の個別の施策・目標のどこにつながっていくのか。

- (福祉課) 機関の連携については、ケースワーカーがケースごとにサービス機関へのつなぎを行っているのが現状です。個別の目標にどのように反映されているかということについては、生活保護世帯が自立した件数などにも連携の成果として現れていると考えていますが、他にも、課題が解決できたことを示すような指標を検討していきたいと思います。
- (会 長) ケースワーカーの会議に出席するのが、ケースワーカーだけでなく、民生委員、保健センターの保健師や教育委員会、警察、医療機関なども出席し、ひとつのケースを大事にして連携し、まちづくりにつなげていかなければならない。

#### ④分野Ⅳ－柱6 保険年金について

(保険年金課) ～ 分野Ⅳ－柱6 保険年金について保険年金課長より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 一人当たり年間医療費が毎年度右肩上がりに増加しているが、このままではこの制度はいつまでもつのか。また、ここまで増え続ける原因は何か。

(保険年金課) 現状、国民健康保険特別会計を設け運営していますが、県内では、一般会計からの公費で補填している自治体がほとんどです。このまま自治体単独で維持していくのは困難であることから、平成 30 年度からは県で特別会計を設け、保険財政を運営していくこととなります。国から国民健康保険に対し充当する社会保障費も、毎年度、1,700 億円を増加する予定です。医療費の増加原因につきましては、C 型肝炎や抗がん剤などの高額な新薬の保険適用や高齢化の進展などが、その要因と考えられます。

(委 員) 医療費の抑制には、健康づくり課などとの予防的な取り組みとの横の連携がなければ、不可能なので、そうしたことも意識してほしい。

(会 長) 国民年金保険料の納付率を上げるという目標が掲げられているが、まずはなぜ納付率が低いのか分析することが重要。年金に対する正しい理解を得ること、免除・減免制度などをしっかり周知することも納付率を上げるには必要だと考えられる。

(保険年金課) 今後引き続き、PR・相談などの実施に努めます。

(委 員) 後発医薬品の使用割合だが、実際病院に行くと、後発医薬品を選択するかどうかが聞かれる機会が増えているとは思いますが、現状の 64.2%を 80%まで上げるにはどんな取り組みを行うのか。

(保険年金課) 意識の向上を図るには、地道な活動を行っていくしかないと思いますが、江南市では年 4 回、後発医薬品を使用することで月に 200 円以上の差額が生じる方には、被保険者に文書を送付し、勧奨に努めています。全ての症状に後発医薬品が推奨されるわけではありませんが、医師会などとも連携して少しでも医療費が抑制されるように努めていきたいと考えております。

### 3 その他

#### 次回会議日程について

(事務局) 第 5 回分科会会議は 1 月 16 日 (月) 午後 3 時から第 3 委員会室で開催します。事前に資料を送付しますので、よろしくお願ひします。

### 4 閉会

(事務局) 長時間に渡りご検討いただきまして、ありがとうございます。第 4 回市民会議 (分科会) を終了します。本日はありがとうございます。

以上